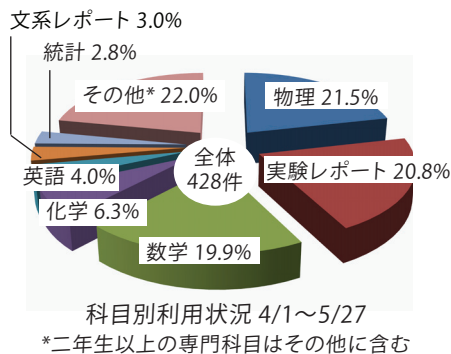


本紙では、最近のアカデミック・サポートセンター(ASC)の活動状況などを報告します。第8号では2013年度第一学期開始時期のASCでの学習支援や進路相談の様子をお伝えします。

学習支援速報

学習サポートには4月1日から5月27日まで延べ428件の利用がありました。例年に比べ今年度は自然科学実験のレポートの書き方や内容についての相談が多く、中でも物理学実験の相談が約半数を占めました。昨年度からのリピーターとして2年生の利用も多く見られたのも特徴的でした。新渡戸カ



き方」に興味が集まりました。

初の試みとして、理系基礎科目の学習意欲向上を目的とした特別講義を開催しました。理学研究院で素粒子物理学を専門とする波場直之教授を講師に迎え、「物理って面白い?」という演題で講演して頂きました。

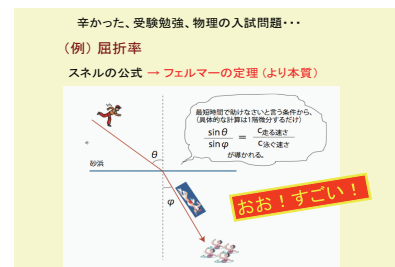
レッジの開校に伴い、6月からは新たに「英語コミュニケーション」のサポートが始まります。英語に堪能な留学生チューターを少人数で囲み英会話スキルを磨ける場を提供します。

スタディ・スキルセミナーはこれまでの3テーマ、[ノート&予習・復習]、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」



4/23 スタディ・スキルセミナー「レポートの書き方」に加え、「論理的に考える」を新テーマとして開設しました。参加人数は4月・5月で延べ130人を超え、特に「レポートの書

高校物理で習う光の屈折の法則を例に本質を見抜くことの面白さを伝え、物事の本質をさらに突き詰めた現代物理学に至る道のりが印象的な楽しい語り口で話されました。最後は、物理を学んで物事の本質を見抜く力を磨けばこれからの様々な勉強・研究がより面白くなる、と締められ、講義後は波場先生に質問しようと多くの学生が列を成しました。講義後のアンケートには、物理面白いですね・本質を見抜く大切さを知った・もう1時間あっても良かった、など高評価の感想が大半を占めました。



5/14 特別講義より

～スタッフの心象 第1回～

アカサポには今日も新入生が押し寄せる。「すみません、時間割をチェックしてもらえませんか?」「はい、こちらへどうぞ。」本日10人目を超えただろうか。「あの、自由設計科目って、…」便覧に説明があるとは言え、履修システムに戸惑う学生は少なくない。学生の質問は続く。「教職も取ろうと思っているのですけど…」自由設計科目に続き、抽選科目や教職に関する質問が来る。お決まりの組み合わせだ。「教職に必要な単位はですね、…」学生の顔が曇り始める。資格取得を目指す学生は多いが、教職の必要単位は多い。その上、取得方法は複雑で注意が必要である。「とりえず、1年生の内はこれとこれを取っていれば大丈夫ですよ。」学生の顔が明るくなる。「また何か分からないことがあれば来てく

このコーナーではアカサポに寄せられる進路・修学相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

ださい。」「はい、ありがとうございました。…やっぱり教職はやめときます。ありがとうございました!」「はい、どうも…(やめるのかい!)」

4月の相談件数は274人、履修や移行システムの相談が8割を占めた。これは昨年と同様である。質問の内容は似ているものの、学生の様子は様々だ。希望の科目の抽選結果の発表を前に悩む学生、「成績が命です」と言い切り成績を取りやすい授業を選ぶ学生、そして次々と軽やかに今後の目標を変えていく学生。相談の現場で学生の思惑が見える。



アカサポ・コラム Academic Support Center Column vol. 4

アカサポ・コラムはASCスタッフの生の声をお届けします。第4回は、アカデミック・アドバイザー*の八若先生のコラムを掲載します。*ASCでは、学部横断的な進路相談に対応するアドバイザー（兼任教員）を配置しています。

「最初の1年を最高のものにしてください」

八若 保孝

アカデミック・アドバイザー
歯学研究科 教授



今年アカデミック・アドバイザーの任について歯学研究科の八若保孝です。この仕事に就くまでは、歯学部および歯学研究科の教務委員長を4年間務めていました。また、アドミッションセンター広報相談部門の委員として、秋に東京、大阪、名古屋で開催される北海道大学進学相談会や、本州で開催される企業主催の大学進学相談会で歯学部ならびに医系学部の入試制度の変更を含めた進学相談を毎年行っています。このような経験と前任者が同じ歯学研究科であったことが、アドバイザーに推薦された理由と考えています。

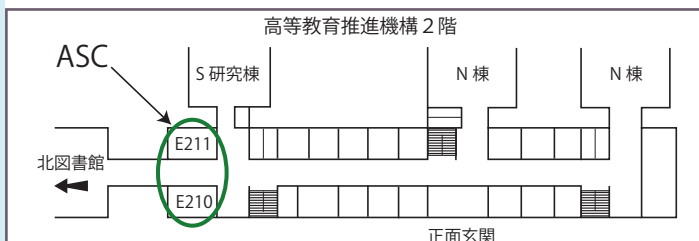
北大の入試制度がかわって3年目になります。入試制度変更内容の把握とこれに合わせた歯学部の入試に関する対応や学部カリキュラムの変更など、学生の皆さんの知らないところで、私たちもいろいろと試行錯誤を繰り返しながら、今を迎えています。医系学部の場合、今

までは4年間もしくは6年間の一貫教育でした。その中で、目標を同じにしたクラスメートと交流を深め、目標に向かって切磋琢磨していました。今回の入試制度の変更により、入学1年目は、総合系入学者と各学部入学者が混ざりあい、いろいろな目標を持った学生が、一つのクラスになって過ごします。長所としては、自分の興味ある分野を1年かけて考えることができること、総合大学の最も大きな強みである学部横断的な人間関係の構築が円滑にできることと思います。しかし、長所ばかりではありません。短所としては、志望する学部学科へ行けない場合が出てくること、特に医系の場合は、綜合理系からの受け入れ人数に限りがあり、高い移行点が要求されることが挙げられます。このような背景を十分に理解して、綜合理系および総合文系の皆さんは、自分の興味を大切に1年間有意義な大学生活を送っ

てほしいと思います。皆さんにとっての最初の1年はいろいろなことができる1年です。志望する学部への進学を獲得するためにも勉学はもちろん行う必要があるでしょう。でも、それだけでなく、部・クラブ・サークル活動やボランティア活動など、今できることがあると思います。北大の教育理念の1つの柱である「全人教育」を意図し、皆さんの人としての幅・引き出しを大きくしてください。

私の専門は小児歯科と障害者歯科です。これから成長していく小児、残念ながら発育において十分とは言えない障害児・者の患者さん、その保護者の方々からお話を聞き、いろいろな説明を行います。アカデミック・アドバイザーとしてこれらの経験を生かして、相談に来る学生の皆さんに有効な情報をおわたしすることができればと思っています。皆さんの未来に続く1年になることを期待しています。

ASCメンバー表			センター長		
			川端 潤	農学研究院 教授	食品機能化学
アカデミック・アドバイザー			アカデミック・インストラクター		
望月 恒子	文学研究科 教授	ロシア文学	日吉 大輔	文学研究科修了	哲学
板垣 正文	工学研究院 特任教授	核融合学	清水 将英*	理学院修了	素粒子物理学
八若 保孝**	歯学研究科 教授	小児・障害者歯科学	アカデミック・アナリスト		
アカデミック・ナビゲーター			山畑 倫志*	文学研究科修了	インド文学
多田 泰紘	理学院修了	進化生物学	吉田 清隆**	工学研究科修了	統計学
浅賀 圭祐**	理学院退学	素粒子物理学	ASCに関する情報はwebページをご覧ください		



アカデミック・サポートセンター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育推進機構 2階
E210(相談) / E211(学習サポート)

T E L 011-706-7526

E-mail asc@high.hokudai.ac.jp

U R L http://asc.high.hokudai.ac.jp/ 2013年5月30日発行

